



雲青志

さいたま市立大成中学校 学校だより

10月号 令和6年9月27日

おもしろい（面白い）ということ

校長 福田博志

ある授業の様子を見ている時に、ある先生が「話は耳で聞くだけでなく、目で聞きなさい。」と言われました。下を向いたままでは、話し手の非言語的手段が見えないので、話の理解度が低くなるから、こう言われたのでしょう。下を向いている人々を前に話す時、見えるのは黒い頭ですが、皆さんが顔を向けて、こちらを見てくれる時、特に目が生き生きと輝いている時は、（面・白く）なります。笑みが浮かんだ顔が見えればさらに（面・白さ）は増すことになります。



3年生が修学旅行で体験した「能」を大成させた世阿弥の『風姿花伝』に（面白い）の語源とする部分があります。それは、天照大神が天の岩戸にこもって、世の中が真っ暗になってしまった時、多くの神々が集まり、大神のご機嫌をとろうとして、神楽を奏し、歌ったり舞ったりしたところ、大神が少し岩戸を開いた。すると、国土がまた明るくなって「神たちの御面 白かりけり」と神々の顔が光で皆白くなったので「あわれ、あな、おもしろ（面白）」と歓喜したということです。

さて、英語の interesting は inter+est+ing に分けられます。international や intercept などに見られる inter は、（中・間・相互）という意味です。est は英語の be に相当するラテン語です。Interest は、A と B の間に存在することから、両者と（関わりを持つ）→（関心・興味の対象）となる→（面白い）となったのです。

パリパラリンピック卓球シングルスで見事 5 位入賞を果たした舟山真弘先輩は、小学 2 年生の時に家族旅行で行った温泉地での「温泉卓球」をきっかけに卓球の（面白さ）を見つけ、努力を重ね、その偉業を成し遂げました。

皆さんは、心から（面白い・興味が持てる）と感じたこと、「これなら一生かけてやってもいい」と思えることが、何か見つかりましたか。

中学生時代の私にとって、最大の関心事は、「剣道」でした。試合成績は勝つこともあれば、負けることもたくさんありましたが、相手と対峙して一瞬で勝負が決まる緊張感が面白くて熱中しました。今でも稽古していますが、相手を尊重し、「一本」を取るための攻防の中で、全神経を集中させ全力で闘う過程を楽しんでいます。また、稽古の後の楽しいコミュニケーションや健康維持といったような付加価値もついてきています。

皆さんがすでに自分で何か決めていることがあれば、それは素晴らしいことです。それを深める努力をしましょう。ただ、これから先、進むべきかなり長い人生をお持ちの中学生である皆さんの前途には、まだまだ未知の世界が開けています。今、自分が興味を持ち、大好きなことを大切に温め育てることはもちろん大賛成ですが、皆さんはもっと好きなこと、夢中になれることに会おうかもしれません。豊かな人生設計のために、アンテナを高く立て、情報収集作業を続けていくことをお勧めします。「面白い」ことを求め続けられる人生は、こよなく愛するものになること請け合いです。